

第 15 回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
総務部会（会議録）

会議の名称	第 15 回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会		
開催日時	令和 7 年 8 月 21 日（木） 午後 7 時から		
開催場所	明智コミュニティセンター 3 階講堂		
議題	・ 課題No.3 校章の制定について ・ 課題No.5 制服・体操服・かばん・上履きについて ・ 課題No.4 校訓等の制定について		
公開非公開の別	公開		
出席者	委員		
	原田 英明		
	安藤 善和		
	杉山 淳		
	小木曾 真由美		
	市岡 信宏		
	岡庭 寿則		
	服部 雪美		
	近藤 譲（Zoom）		
	成瀬 久志		
	加藤 浩児		
	根崎 紀幸		
	小笹 寿里		
	加藤 美香		
	三浦 祐揮		
	山本 修		
	鈴木 茜		
	山田 珠美		
	教育委員会		
	工藤 博也	山本 晋平	西尾 功
	安部 尚紀	志津 博光	
会議の内容	会議録のとおり		

副部会長 それでは、定刻を少し過ぎましたが、たくさんの方がお集まりになりましたので、ただいまから第15回恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

1 部会長挨拶

副部会長 まず初めに、部会長挨拶、原田会長様、お願いします。

部会長 どうも、皆さんこんにちは。まだまだ暑い日が続きまして、私も少し疲れ気味で、声もうまく出ていないんですけど、皆さん、お体を大切になさってください。

今日は開会が19時からということで、ちょっと私も皆さん、お集まりになるのに大変だったのではないかなと思います。次回からは事務局とも相談しまして、19時30分スタートでやるように調整をしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は、よろしくお願いいたします。

この後の進行に関しましては、安藤副部会長にお任せしたいと思います。よろしくお願いいたします。

副部会長 よろしくお願いします。

2 協議事項

副部会長 それでは、事前に皆様のところに配付されたレジュメに沿って進めさせていただきますので、資料のほうご用意ください。

本日の協議事項は、大きく3つです。1つ目が、学校のマーク、校章のアンケートの集計がまとまりましたので、そちらの結果の報告。そして2つ目が、校章の総務部会案に沿って、制服につけるボタンのデザインについての今後アンケートを取っていくことについてが2つ目。そして3つ目が、課題No. 4の校訓の制定について、事務局のほうからご説明をいただくことになっております。

それでは、協議事項の一つ一つにつきまして、事務局のほうから説明をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局 よろしくお願いいたします。統合準備室の安部と申します。よろしくお願いいたします。

それでは資料の1ページをお願いいたします。

1ページの上段の部分になりますが、課題No. 3校章の制定についてになります。

前回の総務部会にて説明をさせていただきましたが、校章につきましては、デザイン案を広く公募しまして、78作品の申込みがありました。

その後、1次選定を市内の小中学校の図工・美術部会の先生にお願いして、12作品まで絞り込みをしていただきました。

2次選定では、南地区の中学校の校長先生のほうに依頼しまして選定を行っていただき、6作品まで絞り込みをしていただきました。

3次選定で、前回7月に行いました総務部会で、部会の皆様に4作品にまで絞

り込みをしていただきまして、7月の中から8月の頭にかけて、南地区の小中学校の児童生徒、あとこども園及び小中学校の保護者の方を対象に投票を行いました。7月の総務部会で、校章のアンケートと併せてボタンデザインも投票すると説明させていただきましたが、手紙でご案内させていただきましたとおりに、校章のアンケートを先に行い、その後ボタンデザインのアンケートを行うよう変更させていただきました。申し訳ございませんでした。

校章のアンケートの結果につきましては、作品No. 4の作品が406票で最多得票となりました。投票者数は児童生徒、保護者合わせて942人の方に投票をしていただき、児童生徒の投票につきましては、868人の対象者に対し、727人の児童生徒に投票をしていただき、保護者の方につきましては215人の方に投票していただきました。前回の7月の総務部会で最多得票数の作品を部会案とすることで決定していただきましたので、作品No. 4の作品を部会案として、今後、幹事会、理事会、総会のほうに提案していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

副部会長 それでは、まず協議事項の1つ目ですけれども、確認をさせていただきます。アンケートの結果、作品No. 4の羽を広げたようなイメージのマークがアンケートで最多得票数となりましたので、前回確認したように最多得票数になったものを総務部会の案として、今後の理事会等の会のほうに提案していくということで、皆様よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、こちらの作品No. 4を総務部会案として提案をさせていただきます。

では、事務局、引き続き2つ目の内容についてお願いします。

事務局 それでは、同じく1ページの下段になりますが、課題No. 5の制服・体操服・かばん・上履きについてになります。課題5につきましては、制服のボタンデザインのアンケートになります。

①で、校章では作品No. 4の作品が最多得票でしたので、枠の中にボタンデザインの4つの案がありますが、作品No. 4のデザインを使った2案と、あとサポート業者、菅公株式会社から提案を受けた2案の計4案で選考したいなと、事務局案として思っております。

②ですが、投票についてになります。投票の範囲につきましては、南地区の小中学生と、あと小中学生とこども園の保護者。投票方法としましては、小中学生は夏休み明けに学校で、保護者の方はスグールを使ってオンラインでと考えております。投票の時期につきましては、小中学生は夏休み明けに行い、保護者の方は可能であれば来週の月曜日から、あと9月4日の木曜日まで約2週間で投票期間を設けて行いたいと思っております。

また、これの投票結果につきましては、最多得要数をボタンデザインの部会案として決定して、課題5のほうを幹事会、理事会、総会へ提案していきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

副部会長 それでは、今、事務局から説明があったとおり、総務部会案としてのものを使ったデザインが2つ、そして菅公から提案があった2つの4案で、児童生徒、

そして保護者にアンケートを取るという形で皆様よろしいでしょうか。
では、この形で、この後アンケートを取るように事務局のほうで進めてください。よろしくお願いいたします。

委 員 すいません。今の内容で問題がないんですけど、ちょっと確認させていただきたいことがあります。

この写真ですけど、これ、そっくりそのまま使われますか。それとも、もうちょっとカラーできれいなものが添付されるのか。

副部長 どんな感じですか。

事務局 カラーになります。カラーと言っても2色程度になります、赤や黄色とかそういった鮮やかなカラーではありませんが。

委 員 実際の色味とかというのは、そこで……

事務局 分かります。

委 員 できる程度の画質というか。

事務局 そうですね。

委 員 ということですか。

事務局 はい。

委 員 大きさですけど、1対1で表示するのか、その辺はどのようにお考えですか。
イメージがどんなもんなのかなというのが、気にされる方がいるかなというところで、今の発言なんですけれども。

副部長 端末によって表示されるサイズが。

委 員 なので、サイズを例えばですけど、赤とかサイズとか例えばですけど、これボタンつけるのであれば、制服にちょっとつけたような感じを。

委 員 そういったところができるのかどうかというところですけど、まあ皆さんはそこまでする必要はないと言われるのであれば、別にする必要もないかなと思ったんですけれども。

副部長 実際にそのボタンをつけたときに、どんな感じで見えるかということですね。

委 員 はい、そうですね。

副部長 そういったところの表示が可能かどうか、一度確認していただいて。

事務局 そうですね。業者に確認します。サイズ感につきましては、ボタンの寸法を表示するのは可能だと思いますので。業者と調整します。

副部長 今、資料に表示されているのが実物か。

事務局 いや、これが実物……

委 員 ちょっと大きいんじゃない。

部長 ちょっとこっちより大きいぐらいですね、これ。

副部長 ちょっと大きいんじゃないかな。ですので、これを少し小さい感じでの仕上がりになるというところみたいですね。

委 員 まあ何が懸念かて、思うとったと違うじゃんというのが一番あれかなというところで。やっぱりちゃんと実際に近いところで提示していくというのが、やっぱりいいかなというところの提案ですので。別にそれをやってくれということではないですけど。

副部長 実際のボタンのサイズ何ミリというところの表示は必ずつけるということで、
 よろしく願いいたします。

部長 制服については、イメージの写真ができれば、そういう合成できると思うん
 で。つくればイメージしやすいかなと。

委員 一個聞きたいんです。制服のボタンには柄はつけるもんですか。校章を別につ
 けるんだったら、ボタンが要らないはず。ちょっと高いなと思って。

委員 校章ないんじゃないかったですか。

委員 あ、校章ない。ないんだったら。

副部長 制服には校章はつけないことになっていますので。

委員 この今のやつは校章の、これはどこにつけるものなんですか。

副部長 この校章は、例えば旗になったり、学校の校舎についているですとか、いろい
 ろな印刷配布物についたりですとか。

部長 子供の持ち物につかない、ボタンぐらいしか。

委員 いや、もうだって。（笑声）

委員 だったら、その辺も含めて要らないかどうかも含めて。

部長 無地、無地という候補ですか。

委員 いや、別にありじゃないですか、どうですかね。

委員 無地も候補に入れていいですか。

副部長 事務局のほうは、これは必ずボタンには何かしかの絵柄が入るというものなん
 でしょうか、それともそういった無地という選択肢もありなのかどうかという
 ところは。

事務局 当然無地の選択肢はあると思います。業者のほうも、一般的というか、どこの
 学校も何らかのデザインが入るということで、こういう提案をしてきまして、
 多分無地でもいろいろあると思うんですけど、シルバーにするのかゴールドに
 するのか黒にするのかとか、無地といってもいろいろ。

委員 せっかくおしゃれな制服になるのに、これが要るのかなと思ひまして。（笑声）

委員 学ランならまだ分かるですよ。

部長 確かにブレザーのボタンに柄は要らないといえば、いらないかな。

委員 あまり見たことが私はなかったので気づいたんですけど。

副部長 ちょっとここで皆さん、もう一度確認をしたいですが、この4案に加えて無地
 の案もつけるかどうかというところで、皆さんにちょっとご判断をいただきたい
 と思うんですけども。

無地の案は、つけてもよいのではないかと、お考えの方は挙手をしていただけ
 ますでしょうか。無地の案をつけてもよいのではないかと。

委員 選択肢の一つ。

副部長 選択肢の一つ、無地をつけてもいいという方は挙手をお願いします。

委員 それが何でかと言うと、学校体操帽の選択したときに、こんなダサいのと言わ
 れたのがあって（笑声）保護者の人に。

部長 あれこれ気にしないように・・・。

委員 そうなんですけど、だから別にボタンに関しては、何か無地があってもいいの

かなと思って。

部会長 無地に決まったら決まったで、今度は色を決めるという。

委 員 ああ、今回ですね。

副部会長 ボタンの色味というのは、もうおおよそこれでというふうで、業者のほうからは。

事務局 業者のほうからの提案はこれだけですね。

副部会長 これはカラーにした場合は、黒か紺か。

事務局 紺ですね。

副部会長 紺色。

事務局 背景が紺色っぽい紺色。

部会長 紺色にゴールドぐらい。

事務局 そうです。

副部会長 縁はゴールド、シルバーということ。

部会長 縁はシルバー、中のデザイン部分がゴールドということですね。

委 員 一旦、ブレザーの例えばゴールドのほうがかわいいじゃないですか。（笑声）

部会長 丸々ゴールド。全部ゴールド。それもどうか。

副部会長 紺にシルバーというイメージで自分は思っていたんですけども、今日の資料で。

事務局 そのイメージです。

副部会長 はい。ゴールドではなく、シルバーが管公のほうから提案されていますが、こういったマークを入れた、絵柄を入れたものに加えて、無地という選択肢も入れるということ。

今、挙手をいただいたところでは、本日ご出席の方の半分以上の方が無地を入れていいのではないかということなんですけれども。無地は、こちらシルバーで、中が紺色の無地ということになります。こういう選択肢を入れさせていただいて。

委 員 ボタン無地にした場合、制服とかは上着ですよ。上着には恵那南中学を示すものはなにもつかなくなるわけですか。

副部会長 はい。

委 員 私は学生時代にブレザーだったんですけど、ちょっとボタンを覚えてないんですけど、胸のところに輪っかが、エンブレムがついていたので、それで分かったと思うんですけど、多分それがないと単なる紺ブレになるのかな。

委 員 でも結局、今の現時点で、中学校のブレザーで、ここだけなんですよ。

副部会長 そうです。

委 員 ここだけになるので、別にそれが分からなくてもいいのかなと思うんですけど。

委 員 その辺も何か別に僕も自分が着るわけじゃない（笑声）自分がそうだったということで。ただ、本当にそういうデザインとかがないとなると、自分たちの学校のものという思いもないのかな、というのがあるのかなと思ったので。どっか行ったときに、どっかで課外活動とか、修学旅行行ったときに、そういうときにね、何もそういう示すものがないと、本当にほかの人と間違えたりとか。

委 員 別にアンケートの一つとして入れるにはいいんじゃないですか。

委 員 そうそう、それは全然いいと思うよ。

委 員 別に徹底するわけじゃないけど。

副部長 あくまでも案の、選択肢の一つに入れて、そういうのがいいという人もいれば、学校の校章が入っていたほうがいいのかという考え方もあると思いますので、そこをアンケートで諮るということによろしいでしょうか。

委 員 ただ、注釈に校章はつきませんということは、伝えておいたほうがいいかなと思う。今のようには何も無いのではということがあるので。

副部長 学校の校章のエンブレムは、上着のポケット等にはつきませんと。

委 員 校章やエンブレムなどはつきませんということは伝えた上で、無地をつけるかどうかという選択肢でいいかなと思います。

副部長 そうですね。例えば襟のところに何かボタンのような形で、校章の形のバッチをつけるというようなことも今のところは予定されていませんし、そうすると、このボタンは校章がつくということになりますので。では、事務局のほうでボタンのアンケートを取るときに、そのことについても説明書きとして加えていただくということで。

事務局 分かりました。

副部長 お願いします。

委 員 一個だけ聞いていいですか。そもそもボタンに校章を入れようとした目的で何だったんですか。

副部長 ですので、こちらにエンブレムなどがつかないということで。

委 員 恵那南というところをアピールするとか、ちゃんとするために、この校章の代わりに制服のボタンに入れようとしたのが、当初の目的ということですか。なるほど。じゃあ、それはさっき言われたとおり、やっぱり書かないといけない。

副部長 分かりました。ありがとうございます。

副部長 では、確認いたします。ボタンのアンケートに、この4枚に加えて無地のものを加えた5つの選択肢からアンケートを取ること。そしてアンケートを取るに当たっては、ボタンのサイズは必ず書くことと、可能であれば実際のブレザーに、その絵柄のついたボタンがついたようなイメージですね、実際に使ったときのイメージをつけられれば、そちらのほうも出していただくということをお願いいたします。

副部長 そして、エンブレムとは、バッチがないために校章がつく場所は、制服ではボタンのみということになっていることの説明書きとして加えていただくということでアンケートを取ること、事務局のほうで進めてください。よろしくをお願いいたします。

委 員 すいません、いろいろ言って申し訳ない。無地になった場合は、色をまたアンケートをとるわけですか。

部長 いや、シルバーの縁取りに、真ん中が紺で。

委 員 あ、無地はそれで決まり。

事務局 そのものをアンケートで出すんですね。このマークが何もないパターンを。
 委 員 無地ということですか。
 委 員 分かりました。
 委 員 もう一個、すいませんけど。これ例えば無地の場合と中に校章が入った場合、
 ボタンの価格が変わってくるんですか。
 事務局 価格は変わらないです。
 委 員 変わらない。
 事務局 無地の場合、聞いていないんですけど、どこからだろうが料金は変わらない。
 委 員 子供がボタンをなくしてくる可能性もあるかと思って。
 副部長 そういったボタンをまた制服の取扱店のほうで、同じく別途販売していただける
 ように、また管公さんのほうに確認しておいていただければありがたいです。
 委 員 どこで買えるかとかですかね。
 副部長 では、ボタンのアンケートについてはよろしいでしょうか。
 では、続いて3つ目の協議事項について事務局より説明をお願いいたします。
 事務局 事務局の山本から説明したいと思います。
 課題ナンバー4の校訓の制定についてということなのですが、昨年度の10月の
 理事会のところで、校訓という形にとらわれず、学校教育目標を定めること
 で承認されたということです。ちなみにこの学校教育目標というのは、教育課
 程編成実施に当たる責任者、つまり校長が、学校の教育目標を明らかにする
 ということになっています。
 ただ、現在、恵那南中学校はなくて校長もいないということなので、恵南の中
 学校の校長会、それから事務局でこの学校教育目標を定めるということで承認
 されました。
 今回は総務部会で、この学校教育目標について提案させていただいて、承認を
 得て最終的に理事会総会で審議を図るようにしたいと思います。
 ちなみに、この校訓の制定については、開校後に職員・生徒で検討することにな
 りますが、その前提となる学校教育目標ですので、どうぞよろしくお願いし
 ます。
 まず、学校教育目標作成に当たってということなのですが、基本となるのはや
 はり統合準備委員会で定めた目指す姿、3つの柱からなる学校像です。未来を
 つくる、人とつながる、地域とあゆむ、この3つです。そこに向けてというこ
 とで、恵那南地区の基本構想の中には、生徒一人一人がこの地域を国内外に発
 信することの大切さを認識することであったりとか、具体的には最先端のICT
 環境の整備であったり、国語力の向上、それからインバウンドを見据えた英
 語力の向上等を柱に、教育課程内における課題解決的な学習を推進するよう準
 備を進めていく、そういったような状況です。
 ちなみに、私たちを取りまく社会環境なんですが、今後、日本国内でも外国人
 の移住・転住がより一層進むことが予想されます。当然、恵那市でも同様に、
 現在も外国人観光客であったりとか、留学生、技能実習生などの受入れが進ん
 でいる状況です。こうした社会の中で、自らの地域や文化を理解・発信しなが

ら、異なる文化の価値観を尊重して、協働していくことのできる力がますます求められていく、そういったような状況です。

ちなみに、こうした見通しは、令和3年の中央審議会の答申、文科省のほうがつくっているものなのですが、その令和日本型学校教育の構築を目指してというところで、個別最適な学びと協働的な学びの実現、それから、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる資質・能力の育成、そういったところが強調されて、恵那南中学校が目指す教育の方向とも合致している、そういったことが分かります。こういった社会的・教育的背景、それから準備委員会におけるこれまでの検討を踏まえて、次のような学校教育目標を提案したいと思います。

恵那南中学校の学校教育目標は、世界の人と未来を語り合う生徒です。この目標には、自分のふるさと・文化・歴史に誇りを持ち、それを他者に伝える力、異なる文化や背景を持った人々と会話し、相互に理解し合う姿勢、未来の社会を見据え、多様な人々と協働しながら、自らの役割を果たそうとする意思と力、そういった願いが込められています。どうぞよろしくお願いします。

副部会長 ありがとうございます。

今、事務局から説明がありましたが、少し付け加えをさせてください。

5校の中学校の校長での部会で、新中学校の教育目標について検討を重ねてきましたが、やはり今回の南中学校は、5つの地域、地区が1つになるということで、これだけでも5つの多様な文化で育ってきた子供たちが一つの学校に集まる。もうこれだけでも本当にお互いの文化を、よさを尊重して学び合っていく、これからも多様な人と関わりながら、国内外の人たちと関わり合いながら、自分のよりよい生き方を、Well-beingというのを求めていける、そういう子どもたちを育てていく、本当にモデルのような学校になると考えています。

そこで、この世界というのは外国という意味合いに限るものではなくて、本当に自分を取り巻いているふるさと、それからこの5つの地域、恵那、岐阜県、日本、そしてアジアや世界という子供たちがこれから成長して活躍していく、その世界のそこで出会う人たちと、これからの自分のよりよい生き方を語り合いながら生きていける、たくましく生きていける子を育てていきたいということで、校長部会のほうで、この教育目標のほうを今検討しているところでございますので、この教育目標を下に、この後、具体的な学校の授業の内容ですとか行事の内容、それから様々な人の配置、こういった活動に力を入れて取り組んでいくのかといった学校の活動の様々なところが、具体的な部分が決まってまいります。

そうした活動を続けていく中で、その中で初めて子供たちと職員とで、この学校で目指すものは何なのか、地域の方たちともそこを共有しながら、そこで学校の校訓というような、誠実ですとか飛躍ですとか、そういった校訓が自然に立ち上がってくるのかな、それを合言葉にしようということで、じゃあ校訓として定めましょうというようなことを、これから後の子供や生徒が、地域の人

たちとが、思いが一つになったときに校訓というのができてくるかと思っております。

ので、ここの部会の中であえて校訓というものを方向を定めるのではなく、まずはこの学校教育目標を案として、ここで校長部会が市教委のほうで相談をして定めていくところを皆さんに、まずはご理解、ご承認いただいた上で学校の活動を進めていきたいというふうに考えておりますので、付け足して説明をさせていただきます、よろしくお願いいたします。

まずは原案の、この現段階の「世界の人と未来を語り合う生徒」という教育目標について、何かご質問やご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

委 員 語り合う生徒というのは、何か語り合うことをしていくという、ざっくりとそういう……

副部会長 そうですね。本当に今、中学校のいろいろな生活の中の約束一つとっても、上からどんとルールが押しつけられるのではなくて、やはり生徒の中で話し合っ
て、生徒と職員で話し合っ、そういった生活のルールが決まってくるという
のは、どこの学校でも当たり前になってきています。

南中学校でも、やっぱり語り合う、自分の、お互いの考えを出し合っ、より
よい学校生活を実現していくということが基本になってきますので、語り合
うという活動は大事にしていきたいと思っております。

委 員 それは学校の教育の中に入れていくという感じなんですか。

副部会長 普段の授業の中でも、それぞれで追求した後は仲間と語り合っ交流する場面
というのはありますし、様々な場面で、ちゃんと意味のあるそういう語り合い、
交流というのは位置づけるようにしています。

委 員 何か自分の子供が中学生になっていく上で、小さいところから大きいところに
なるので、不安がやっぱりあるんですよ。その中で、今までは少人数だから、
ざくばらんに話していたとか、なかなか大人数の前では言えなくなるという
ことも、多分、串原とか上矢作で考えられるんですね。それを徐々にグラデー
ションで慣らしていくのか、急にじゃ、教職員室の前で話してと言われても多
分ちっちゃいところがあるかなと思って。

副部会長 個別最適という言葉がさっき出てきたと思うんですけども、本当そういう人
前でしゃべるのが得意な子、できる子もいれば、そういうのが苦手な子も様々
ありますので、私たちは一応教育のプロとして、そういうそれぞれのその子の
状況を捉えながら、その子にとってでも、その子にも順番にそういう力がつい
ていけるように段階を追っ働きかけをしていくということで、当然串原、私
の勤めている串原の子も大勢の前では緊張してしまう子が、固まってしまう子
がいますので、その子にはその子の力をつけていく、見通しというのを教師と
その子で順番につくっ、働きかけを毎日していくということになっています
ので、上矢作の子も串原の子も、新しい中学校で、そういった全体の中で個々
の力をつけていくというところも、我々は十分に考えながら進めていきますの
で、またそこで心配なことがあれば、保護者の方や皆さんともいろんな方とそ
れこそ語り合いながら、その子の力をつけていく道筋というのを考えていきま

すので、よろしくお願いします。

委員 できれば先生たちとか校長先生とかも、多様な意見を聞き入れられるようなファシリテーション力というのを学んでもらえると、私たちは助かるなと思うんです。

副部会長 私たちも管理職の研修なんかでは、そういったファシリテーターとしての、マネジメント力というところの研修は繰り返し、勉強を続けております。

部会長 ちょっと私のご意見、申し上げてよろしいですか。

学校教育目標をこの部会で提案して、校訓の制定については、開校後に職員・生徒で検討するとなっていますけれども、この今提示されている「世界の人と未来を語り合う生徒」というのは、別に悪いとは思わないんですけども、この今の段階で、校訓の前段階としては、このコンセプトに書いてある、未来をつくる、人とつながる、地域とあゆむとか、そういうレベルでいいんじゃないかなという考えもあるんです。

ですから、今の「世界の人と未来を語り合う生徒」というふうな形にまとめ上げる段階なのかどうか。これがバンと出れば、これが校訓でいいんじゃないみたいな話になっちゃうかなという気もするんですけども。まあ私の個人的な意見です。別に部会案とせぬとかじゃなくて。

副部会長 多くの学校で校訓となると、例えば自主自律ですとか誠実ですとか、そうすると、いわゆる漢字の熟語的な。

部会長 つくられた、内容のことで今からそういうのつくろうということになるから。

委員 部会長がおっしゃるとおりだと私も思うんですけど、そもそも5つの学校が1校になるんだったら、まずは仲よくするみたいなことだと思うんですよ。

だから、今の現段階で大人でも分断が起きているんだから、目標として分断をなくすみたいな目標で全然いいんじゃないかなと思っていて、これ世界を見ちゃうと、大元の柱のところ見えていないですよねになっちゃうなというのも私も思います。

副部会長 また、当然この学校教育目標の下に、学習ですとか人間関係のことやふるさとと地域と連携して学んでいくというような柱立てを私たちはしておりますので、当然この基本構想にある未来をつくる、人とつながる地域というのという、この基本構想の3本柱というのは新しい学校の中でも、この教育目標を具体化していくときの柱に当然なっていくものです。

その中で、それに沿って、さらに具体的に、では5つの地域から集まったという友達との人間関係をどのように醸成していくかというような具体的な方策をそこに、学校の教育全体計画というところで立てていくことになりますので。

また、その一番上の教育目標をまずこういうふうに設定して、この後またさらに校長部会と市教委のほうで、基本構想にある3本柱に基づいて、もっと具体的な肉づけをしていくことになります。

事務局 この目標をもらったときに「世界」という言葉が入った教育目標てあまり聞いたことがなかったので、これは大きいなと非常に思ったんですけど、こういった提案文書をつくっていく中で、ますますほれ込んできたというか、学校教

育目標というのは、自分たちが目指す姿、これは学校卒業するときじゃなくて、本当に大人になったときぐらいまでの遠くの部分でもありますし、それから今日、明日ぐらいの自分自身を振り返るものでもあるんです。

なので、そういったことを捉えたときに、例えば世界で考えたときに、世界と行った、世界と語り合うためなんて、誰のことを語り合うことすらできるのか世界のことでという、そういった本当に小さなところから地域であったり、隣の子供であったり、友達であったり、そういったところを大切にするというのが大前提としてあるという、そういったところに振り返ることができる、非常に扱いやすいと言っちゃ駄目なんですけれど、子供たちにとっても自分自身を常に振り返ることもできるし、遠くの目標として見つめることもできる、非常にいい目標だなというふうに感じました。

委員 すいません、個人的な意見になっちゃうところが多々あると思うんで流してもらいたいんですけど、僕的には最初に副部長がおっしゃった内容、今回この統合するメリットで何なんだろうというところがあるんじゃないかなと思って、先ほど言われてるみたいに、それぞれの文化が持っているところが一つに集まるというところがもう既に世界の縮図だよみたいなことをおっしゃった。だから、そこをここに書けばいいんじゃないかと思って。

副部長 あ、すいません。

委員 何かここ書いてある内容で、もう何だろう、分かりにくいというか、かみ碎けば分かるんですけど、ほかの人から言ったら今回もっと身近に書いてもらうような内容が必要なんじゃないかなというところがあって、もう副部長が言われたとおりのことをそのまま載せればいいんじゃないかというぐらいの、最初聞いたときに別にそれでいいんじゃないかなというふうにお話したんですよね。だから、もっと難しく書くじゃなくて、もっと軟らかく分かりやすく、法律じゃないんだからというところのほうが大事なんじゃないかなというふうに思ってた、それがまず目標、教育目標でいいんじゃないという。だから難しく書いてから、いろいろ勘ぐって、こんな難しいというふうになるんじゃないかというところを感じたんで。

ごめんなさい、ちょっと個人的な意見になっちゃうんですけど、今回5つの地域が1つになるという、そこが一番の今回のメリットであって、多分皆さんの大人たちが考えている子供に求めるというのが、そこになるんじゃないかという。

だから教育目標で、子供にこうなってほしいという大人たちの思いが詰まったというか、言葉になったのが教育目標になるんじゃないかなというふうに思うんで、別に世界の人と未来を語るでいいんですけど、もうちょっと分かりやすい補足があってもいいのかなと感じました。すいません、個人的な意見です。

副部長 ありがとうございます。

部長 隣の子も世界だと言ってしまえば、それまでなんだけど。（笑声）

副部長 いま一度、今考えている学校教育目標についての、そこに校長部会ですとか、

市教委の皆さんと話し合っただめしている願いが、今回の新しい南中学校の統合の背景にある部分、地域の皆さんの、保護者の皆さんの思いも含めたところで、この説明の文章のほうは改めて、またちょっと書かせていただこうと思いますので、よろしくお願いします。

委 員 できれば、身近に感じれる言葉がいいかなというのと。

部会長 作成に当たってのここの部分よく分かるんですけど、つくられたのがこれになると・・・。

委 員 結びつかないです。

副部会長 はい、分かりました。それをちゃんと結びつけるように。

委 員 それこそ中学生でも分かるような言葉で、これが今本当に世界という形の取り巻くふるさとでと聞かないと分からないので、中学生でも、あ、そうなんだと分かるような言葉にしてもらったほうがいいのかと思います。

副部会長 ありがとうございます。

部会長 英語とか頑張ってできないのかなと。（笑声）

副部会長 ありがとうございます。では、ちょっとそこも踏まえて、また改めてまとめていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これで本日の協議事項を……

事務局 ちょっと確認させてもらってもいいですかね。

副部会長 はい。

事務局 先ほどのボタンデザインのアンケートのことで、ちょっと確認をさせていただきます。無地を入れて5つの選択肢の中から選ぶということでアンケートを取るんですけど、その無地は、基本的に今白黒なんですけど、この文字が取った状態の無地でアンケートを取るということでよろしいでしょうか。

もし無地が最多得票を取った場合に、その無地をそのまま使うのか、また色をちょっと変えてアンケートを取り直すか、そのことは別にいいですか。

委 員 それは、変えられるのかどうかというところが論点であると思うんですけど。

事務局 変えられると言ったらアンケートを取るということですか。

委 員 取ってもらえるとうれしいな。（笑声）

事務局 無地でもいろいろパターンがありますが・・・。

委 員 でも、そんなにないですか。

部会長 全面シルバーにするとか、全面ゴールドにするとか。

委 員 そういうふうになにかつけてもらって、どれがいいみたいなふうにしたら、とても分かりやすいです。

副部会長 管公さんが、今回提案してくださったのが、このシルバーのボタンに真ん中紺色の色をつけたところに、さらにシルバーで絵柄が入るかとかというものですよね。

事務局 そうです。

委 員 無地はその絵柄がないということなの。

事務局 取ったものを無地ということで、アンケートを最初取る。

部会長 それでいいんじゃないかな。

事務局 それで無地が最多得票取った場合は、また無地でアンケートを・・・。

委 員 いろんな無地じゃなくて。（笑声）

委 員 できるのかどうかを知りたかったという。

事務局 聞けば、できると言いますよ。

委 員 じゃ、聞きましょうよというところなんですけど、要はそこで逆になって、仮にですよ、無地が1位になった場合に、そこからスケジュール的に別に全然間に合うかなと思ったんですけど。

副部長 そうですね、多分ボタン、来年の4月の入学式。

委 員 なら、間に合います。

委 員 来年の入学式、じゃ間に合わないけど。

委 員 無地でもう一回アンケート取ると、総務部会が増えるとか、そうなるのはやめていただいたほうがいいのかな。

事務局 最後のところで次回の総務部会と書いてあるんですが、10月の末に校歌が一応完成して上がってきます。それを皆さんに聞いていただくということで、11月頃に総務部会をやりたいなとは思っています。その中で総務部会のほうでは、1から8までの課題があります。今日承認してもらいましたので、総会のほうに提案できるんで、大体検討が終了してくるんで、確認も合わせて、11月ごろにやらせてもらいたいなと。

多分、無地を取れば、その前に集まる必要があるんで、10月の・・・

副部長 一度のアンケートでは難しいですか。例えば、ベースになるのは管公が提案してきたシルバーのところに紺でシルバーの絵柄がまず基本で、5つの案を示し、さらに例えばカラーバリエーションですね。

事務局 そこで無地を選んだ人は、次へ進んで・・・。

委 員 ああ、それいいね。

委 員 それできない、だからやっかいだったとか。

副部長 無地でやろうが、絵柄が入るものであろうが、別の色に変えられるのであればというふうにどうしても考え方があって、無地しかほかの色が。じゃあ、絵柄の入ったものはほかの色にできないのというふうに考える方は当然出ていらっしゃるんで、この5つの案プラス、カラーサンプルですね、例えば真っ黒とかゴールドとか。色の選択。むちゃくちゃになっちゃいますか。

部長 これをアンケートでやろうと思っても・・・。

副部長 ほかの色を問うかどうかというところは、ちょっと改めてここで確認しておかないと、ちょっと話が混乱してしまうのではないかなと。当初提案された、このシルバー紺の無地であれば、このシルバー紺の無地で。

委 員 決まりというならば、それでいいんで。

委 員 それが嫌なら、こっちの柄を選んで。

副部長 一番すっきりするかなと。

部長 バックの色の選択肢が入ったら収集つかない・・・（笑声）

副部長 むしろ赤がいいとかね、緑がいいとか。

委 員 それ絶対ダサイ、いや。

副部会長 いや、そりゃダサいかどうかはいろんな人の考えですので、はい。そのためにアンケートを取りますので。

色の選択肢については、問わない形でよろしいでしょうか。当初の管公が提案してきたシルバーのところに紺色というところで、よろしいでしょうか。

事務局 無地を選択肢に入れ、5つで選んでいただき、そこで最多得票のボタン柄で決まりということでもいいですね。

もう1件、先ほど、ブレザーにボタンを装着したイメージがあるといいというご意見がありましたが、それは5つパターンが必要ですか。

部会長 それはそうだね。

委 員 そうですね。

委 員 それが見えるとうれしいです。

部会長 それでちょっと比較しないと。

委 員 出来上がりが分からないので。

事務局 分かりました。ありがとうございます。では、以上です。

副部会長 それでは、本日、協議事項3つは以上で終わりました。

それでは3番の連絡事項で、事務局のほうからお願いします。

事務局 それで、課題4については、このまま理事会・総会のほうで提案しても大丈夫ですか、この教育目標。

副部会長 あ、すいません。

部会長 教育目標については、もう一つ説明を加えるなりあるいはもうちょっと分かりやすいワンフレーズでいくなら分かりやすい感じにするなり、どちらかにしていただかないと思いますけど。

副部会長 こちらのこの形で今後のこれからの理事会等に諮るというような、ここの前後の説明の文書のところですね、そこを皆さんにご理解いただけるように打ち直して。

部会長 最後の「世界の人と未来を語り合う生徒」ということに関しての説明なのかあるいはこれ自体を変えるのか、どちらかを校長部会のほうでやってもらったほうがいいので。

副部会長 校長部会のほうとしては、この教育目標でいきたいというふうに今考えています。

部会長 そうか。

委 員 でも、結局これこのまま入れちゃうと、ただのどうですかと意見で決まっていっちゃって、それはあまりよろしくないかなと思っていて、もうちょっと校長会のほうでも、校長先生たちもみんなそう思っているよということを一回伝えてもらいたいなと思うんですけど。

部会長 ちょっと、ううん。

委 員 そうじゃないと、これこのままやっぱり通っていっちゃうと・・・。

部会長 「世界の人と未来を語り合う生徒」で、子供たちがどういうイメージを持てるかというようなのがあったんですけど。

事務局 教育目標はやはり非常に大きい目標が多いと思うので、大きい目標を示すんで

すけど、その中で先ほど安藤先生も言われましたが、それぞれの柱が立って、教育課程というのが組まれていくので、常にこの目標が子供たちの目前にあって、そこを目指していくとよしか、それを基にしながらいろんな教育課程が組まれていくという、そういうイメージです。

委 員 じゃあ、これだけ全体を変えられないんですか。

部会長 それであれば、このコンセプトもこれでいいわけで。

事務局 世界と未来と語り合うというところも、この統合中学校の基本構想の中に入っている、すごく大きな言葉かなと思うので。

委 員 これをじゃあ、もうこれは変えられませんよという話であれば、ここで話し合う必要はないですね。どうですかという意見を聞くというあれじゃないですね。もうそれは変えられないですよという事務局のご意見でしたら、もうそれは話し合っても無駄だと思うので、進めていかれたらいいですかと話になったら。

副部会長 ただ、今こうして皆さんにお示しするところで、もう少し例えばこの「世界」という言葉の捉え方について、この資料ではそれが分かりにくいというようなご意見ですとか、そういったやっぱりもう少し統合の、今回の統合の目的というところも踏まえた、そこが伝わると今後の会議での説明というものでいうところが。

部会長 コンセプトの文章の中で、世界で出てきているのかなという気がしますけど。というところで、地域とか、あしたとか未来とか、それは合っていたと思うけど、世界、世界で・・・

委 員 急に世界出てきちゃった。

部会長 国際性というのは別にいいんだけど。

言っちゃうと。感染っていうのは別にいいんだけど、悪いことではないんだけど。

副部会長 先ほども申したように、外国の方に限った世界と捉えでは私たちはおらず、やっぱりこの地域……

部会長 読んだ人は、インターナショナルだと思いますよ。

副部会長 そこが伝わるような形の説明がされたものに手を加えて。

部会長 そこに手を加えてやることを、LINEでも何でもいいから、もう一回見せてもらってOK取るとか。

事務局 いいですかね。ですので、皆さん、言われたところを見て、まずは教育目標については、まず、ここの事務局や校長会のほうで、最終的に任せていただけるという承認を得たところで、「世界の人と未来を語り合う生徒」、これについては特に異論はないんだけど、その説明が中学生が見て分からないようなのがあるので、理事会や総会で説明するときに、この解説のところをもう少し分かりやすく出していかないといけないので、そこはしっかり受け止めてやっていくという、それでよかったと思うんですけども。

部会長 だから、この作成に当たってはいいんですけど、目標案、そのものに対するちょっと説明書きをしたほうがいい。

副部会長 かしこまりました。では早速、校長部会のほうと市教委でまた練っていきたい

と思いますので、また、ご承知おきください。よろしくお願いいたします。

3 連絡事項

副部長 では、事務局から3番のほう、よろしくお願いいたします。

事務局 次回の総務部会ということで、先ほどもちょっと話をさせていただきましたが、11月に総務部会のほうを校歌のこともありますので、それとあとほかの課題について、ちょっと整理をさせてもらいたいなというところで計画をいたしますので、またご案内いたします。よろしくお願いいたします。

副部長 次回の始まりは19時30分で。

事務局 分かりました、申し訳ございません。

副部長 それでは、以上で、今回協議する内容については、全て皆様にご確認していただきました。

それでは、これもちまして、第15回恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会を閉じさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。